



体育（運動領域） 富士見スタンダード

～よりよい体育授業を目指して～



- ◆意欲的に活動やアドバイス、努力をしている児童生徒を積極的に称賛しましょう。
- ◆本時で、児童生徒が、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」がわかるように掲示物や資料を工夫しましょう。

導 入

（1）集合・整列・挨拶・健康観察

- 集合は、太陽の位置や風向き等を考慮した場所・向きにしましょう。
- 移動はかけ足で、素早く行わせましょう。
- 笛や太鼓、ハンドサインを効果的に使うようにしましょう。
- 元気な声で、気持ちのよい挨拶をさせましょう。
- 表情や態度を観察し、健康状態を確認しましょう。
- 運動ができる服装であるか確認しましょう。



- 長い髪は結んであるか。
- 爪は切ってあるか。
- ミサンガ等の不要な物は付けていないか。等

★教師自身の服装、髪型は児童生徒のお手本となるものであるかチェックしましょう。

（2）準備運動・補強運動

- 準備運動は、一つ一つの動作について理解させながら正しく行わせましょう。
- 体を温める運動を心がけましょう。
- 主運動で可動する部位は、重点的に動かせるようにしましょう。
- 補強運動は、学校・学級の体力課題を考慮した運動を取り入れましょう。

（例） グーパー運動（握力）
帽子スロー（投力）

継続して取り組ませることが重要です。



（3）場づくり・用具の準備

- 約束事やきまりを徹底し、安全に素早く準備させましょう。
- 児童生徒が「どこに、何を準備するのか」視覚的にわかるようにしましょう。
- 「誰がどの準備をするのか」役割分担を明確にしましょう。
- 用具を移動する時は、その用具に合った安全な方法で運ばせましょう。
（例）【跳び箱】何段かに分けて運ばせる。1 段目は、上部が重いので、上下を逆にして運ばせる。
- 安全が確保でき、教師が把握できる場の数にしましょう。
- スムーズに準備できるよう、単元に応じた教材・教具の環境を整えておきましょう。

展 開

マネジメント場面を少なくし、運動量を確保しましょう！！

*マネジメント場面とは
学級全体が移動、待機、班分け、用具の準備、休憩などの学習成果に直接つながらない活動に充てられている場面

(1) ねらい(めあて)の確認

見学者も「技能」以外の学習ができます！！

- ・子ども達がいつでも見られるように、目に見える形で提示しましょう。
 - ・本時のねらいを子ども達に短く、わかりやすい言葉で伝え、課題をつかませましょう。
 - ・説明や指示は簡潔に短時間で行うようにしましょう。
 - ・声の大きさ・メリハリ、表情に気を付けましょう。
- ★本時は、評価の観点のうち、何を重点的に評価するのかを意識して授業を行いましょう。

(2) 慣れの運動

①技能(運動) ②態度 ③思考・判断

- ・主運動の動きや技能の向上につながるような運動を取り入れましょう。
- ・単元を通して継続的に取り組ませ、動きの質が高められるようにしましょう。
- ・動きのポイントやコツを確認しながら行えるように声掛けをしましょう。



(3) 主運動

- ・児童生徒の発達段階に合ったルールやみんなが活躍できるルールを考えましょう。
- ・グループやチームの人数をできる限り少人数にして、運動量を確保しましょう。(役割が明確になると、どのように動いたらよいのかわかりやすくなるので、運動量が増えます。)
- ・学び合いが活発になるよう、技や動きのポイントを簡潔に示しましょう。写真や動画など、視覚でとらえられるものがあるとよいでしょう。
- ・発達段階や個人差を踏まえた指導を心掛けましょう。
- ・できる・伸びる実感を味わわせるには、スモールステップを活用しましょう。
- ・めあてを意識して取り組んでいる児童・グループを称賛し、意欲を高めていきましょう。
- ・当該学年で身に付けさせるべきことは繰り返し指導し、定着させましょう。
- ・模範を見させるときは、見るポイントを明確に示し、それが確認できる場所で見させましょう。
- ・集合は、伝えたい内容に応じて、グループまたは全体のどちらにするか選びましょう。
- ・技能が低い・運動することに苦手意識のある児童生徒、負けが込んでいるチームには、積極的に関わらしましょう。
- ・矯正的助言「ここをこうするといいいよ!」、具体的称賛「〇〇が上手にできたね!」等の声かけを1時間の授業の中で100回以上になるように心掛けましょう。

整 理

NGワード

- ×「こんなこともできないの」
- ×「だめだな」「下手だな」

(1) 後片付け

- ・グループや仲間と協力して安全に素早く行わせましょう。
- ・事前に仕事分担を明確にしておき、児童生徒がスムーズに動けるよう指導しておきましょう。

(2) 整理運動

- ・ストレッチなど、伸ばしている部位を意識して行わせましょう。
- ・本時に使った身体部位を重点的にほぐせるよう、本時の内容に合った整理運動を行わせましょう。
(例) ソフトボールの授業 → 肩まわり中心の整理運動など

(3) 学習のまとめ

- ・本時のねらいの達成度を振り返ることができるまとめをしましょう。
- ・本時のねらいに即し、努力していた・がんばっていた児童生徒を紹介しましょう。
- ・見学者にも今日学んだことやがんばっていた友だちを発表させましょう。
- ・次時の課題へつながる、意欲が高まるまとめを心掛けましょう。
- ・学習カードは簡潔に記入、記録できるものにしましょう。

